



【令和4年度災害対処訓練】

令和4年12月3日

令和4年12月3日（土）自衛隊札幌病院（病院長：鈴木陸将）は、道央地域（札幌地区）における大規模地震（直下型地震）を想定し令和4年度災害対処訓練を実施した。統裁官（病院長）は訓練の開始に当たり、「院内・外の連携要領の確立」及び「安全管理・感染管理意識の徹底」の2点を要望し、「各種初動対処要領及び各種計画の実効性について検証し、事態発生時における即応性を含めた能力の向上を図り地域に貢献できるよう、有意義な訓練を実施することを期待する。」と訓示した。

前段訓練は7時30分に札幌直下型地震発生状況付与から開始され第3種非常勤務態勢に移行、部隊当直司令が電話による非常呼集を開始し病院職員は登庁後、速やかに指揮所を開設、職員の被害状況の把握及び被災者等の受入れを第一義とした所要の準備を実施した。その後、初動部隊（自衛隊札幌病院救護班）が北部方面衛生隊と連携して支援態勢を整えた。後段訓練では災害翌日の場面を想定し、病院への大量傷者受入れ要領について演練し、札幌市災害時基幹病院としての役割を再確認した。併せて、北海道DMATにより院内に札幌南SCU（広域医療搬送拠点）を開設して災害地域への患者搬送拠点を提供し、地域医療への貢献要領について一案を案出した。

また、北部方面総監（沖呂陸将）の訓練視察を受け、病院の今後の課題等についてご指導を賜った。本訓練において事業継続計画の実効性向上、初動態勢の早期確立及び関係機関との連携の重要性を再認識し訓練を終了した。



当直による電話呼集及び状況把握



病院救護班の派遣準備



演病院長（小原将補）への派遣準備完了報告



大量傷者の受入（玄関前）



DMATとの連携



北部方面総監視察（1Fエントランス）



機能別訓練（ヘリ搭載訓練）



患者を運ぶ救護員（方面衛生隊）